

平成22年度 シラバス	学年・期間・区分	3年次・通年・必修
	対象学科・専攻	留学生
日本語 (Japanese language)	担当教員	清水 純子 (Shimizu, Sumiko)
	教員室	学生共通棟 1階非常勤講師控室
	E-Mail	sakio@po3.synapse.ne.jp
教育形態 / 単位の種別 / 単位数	講義 / 履修単位 / 1単位	
週あたりの学習時間と回数	授業 (50分) × 30回	
〔本科目の目標〕 話し言葉と書き言葉の違いを理解し、それぞれの運用能力を習得する。		
〔本科目の位置付け〕 前期の内容は、日本人との円滑な人間関係を築く上に不可欠であり、後期の内容は、すべての講義のレポートを作成するさいの基礎となる。		
〔学習上の留意点〕 講義の内容をよく理解するために、毎回、復習をすること。理解状況を把握するために、前期は單元ごとの小テスト、後期は文法練習や作文の宿題を課す。		
〔授業の内容〕		
授 業 項 目	時限数	授 業 項 目 に 対 す る 達 成 目 標
1. 依頼の表現	4	依頼の文型を理解し、運用できる
2. 誘う・受ける表現	4	誘う・受ける表現を理解し、運用できる
3. 誘う・断る表現	2	ていねいな断り方ができる
4. 許可を求める表現	3	許可を求める文型を理解し、運用できる
5. 伝言の表現	2	伝言の文型を理解し、運用できる
6. レポートに使われる文体	1	話し言葉との文体の違いを理解し、使い分けができる
7. 文の基本	4	明快な文を書くために必要な基本が理解できる
8. 句読点の打ち方	1	句読点の種類、打ち方、役割が理解できる
9. 段落構成	2	文章の論理的な構成が理解できる
10. 仕組みの説明	2	仕組みの説明に使われる文型・表現を理解し、運用できる
11. 分類	2	分類に使われる文型・表現を理解し、運用できる
12. 定義	1	定義に使われる文型・表現を理解し、運用できる
13. 比較・対照	2	比較・対照に使われる文型・表現を理解し、運用できる
〔教科書〕『現代日本語コース1』名古屋大学出版会 『改訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』スリーイーネットワーク		
〔参考書・補助教材〕『大学・大学院留学生の日本語 4 論文作成編』アルク		
〔成績評価の基準〕<前期> 平常テスト (100%) - 授業態度 (最大10%) <後期> レポート・宿題 (100%) - 授業態度 (最大10%)		
〔本科 (準学士課程) の学習教育目標との関連〕 1-a, 2-a		
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕		
〔JABEEとの関連〕		